教材研究ノート№2-A-6

≪学習問題≫

ひろしくんは，500円の色えんぴつセットと200円のノート　　　を買いました。ひとみさんは，500円の色えんぴつセットと600円のふで入れを買いました。

代金は，それぞれいくらになるでしょう。

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・2年「たし算とひき算」で，50＋20を10を単位として5＋2に帰着して計算している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・100を単位として，数を相対的な見方で表す学習をしている。

○共同追究でのゆさぶり

・(何百)＋(何百)で，千に繰り上げる計算方法を考えるのは初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・2年「大きい数を調べよう」で，何千何百という数を，100を単位として何個という見方を学習している。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫



②見通し: 50＋20は，10を単位として5＋2で計算した。

→500，200，600を100を単位として考えれば説明できそうだ。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題:100を単位として，500＋200や500＋600の計算の仕方を100円玉の個数とみて説明しよう。

③個人追究:500＋200，500＋600の計算の仕方を説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの考え方にも共通していることはなんだろう？」

→「500＋200，500＋600 の計算を，5＋2，5＋6として百円玉の個数で考えている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「百円玉が11個集まると，本当に1100円でいいのかな？」

→「百円玉が10個集まると，1000円になる。」

「1100は，1000が1個と100が１個のことだから，百円玉にすると11個になる。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・100を単位とすれば，何百＋何百の計算も，1桁のたし算やひき算として考えることができる。

・100が11個になるときは，100が10個で1000だから，1100円になる。

⑥定着･活用問題

1. 500－200を，100を単位と考えて

計算の仕方を説明しましょう。

1. 次の計算をしましょう。

① 200＋300　 ② 300＋600 　③ 300＋600

④ 600－200　 ⑤ 400－300 　⑥ 900－400

⑦ 800＋700　 ⑧ 900＋500 　⑨ 200＋800

****

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・課題把握では，50＋20の計算を，10を単位として5＋2にして計算した学習を想起させ，500＋200の計算は，100を単位として考えるという見通しをもたせたい。

・500＋600のように1000を超える場合，100が11個集まると1100になることが理解しにくい子どもがいる。百円玉の模型を準備し，半具体物を操作することを大切にしたい。

【板書計画】